

学校における働き方改革に係る 教職員アンケート調査結果 (令和7年度)

調査概要

1. 時期 令和7年7月～令和7年8月
2. 対象 公立学校の常勤職員(任意回答)
3. 調査方法 Googleフォーム

1 回答者数・属性

(1)回答者数

校種\職名	教育職員						事務職員等				合計
	校長・教頭	教諭・講師	養護教諭 養護助教諭	実習助手	その他	計	事務職員	技能職員	栄養職員	計	
小学校	289	1,444	125		4	1,862	85	2	1	88	1,950
中学校	174	1,113	79		2	1,368	55	1		56	1,424
高等学校	51	710	30	49		840	69	13		82	922
特別支援学校	24	428	16	14	16	498	15	5	1	21	519
公立学校 計	538	3,695	250	63	22	4,568	224	21	2	247	4,815

※小学校には義務教育学校前期課程を、中学校には義務教育学校後期課程を含む。

※その他は、栄養教諭又は寄宿舎指導員。

(2)担当業務

校種\分掌等	校務分掌等			部活動・委員会			
	学級・HR担任	主任等	その他	運動部顧問	文化部顧問	委員会	その他
小学校	1,121	658	515	21	23	1,363	526
中学校	629	559	362	798	224	657	236
高等学校	263	222	396	491	271	175	95
特別支援学校	323	107	117	41	7	130	333

※複数回答のため、延べ数。

(1)市町村立学校

校種\職名		教育職員					事務職員等				合計
		校長・教頭	教諭・講師	養護教諭 養護助教諭	その他	計	事務職員	技能職員	栄養職員	計	
小学校	東青	51	299	22		372	12	1		13	385
	西北	47	165	15	1	228	14		1	15	243
	中南	57	287	25		369	14	1		15	384
	上北	29	194	17	2	242	12			12	254
	下北	26	110	12		148	6			6	154
	三八	79	389	34	1	503	27			27	530
	小学校 計	289	1,444	125	4	1,862	85	2	1	88	1,950
中学校	東青	30	260	12	2	304	6	1		7	311
	西北	25	142	13		180	10			10	190
	中南	22	158	11		191	9			9	200
	上北	27	151	14		192	10			10	202
	下北	19	93	8		120	6			6	126
	三八	50	297	20		367	14			14	381
中学校 計	173	1,101	78	2	1,354	55	1		56	1,410	
市町村立学校 計	462	2,545	203	6	3,216	140	3	1	144	3,360	

(2)県立学校

校種\職名		教育職員					事務職員等				合計
		校長・教頭	教諭・講師	養護教諭 養護助教諭	実習助手	その他	計	事務職員	技能職員	栄養職員	
中学校	1	12	1			14					14
高等学校	51	710	30	49		840	69	13		82	922
特別支援学校	24	428	16	14	16	498	15	5	1	21	519
県立学校 計	76	1,150	47	63	16	1,352	84	18	1	103	1,455

2 こどもと向き合う時間の確保の状況

(設問)現在、こどもと向き合うための時間が十分に確保できていると感じますか。(単一回答)

(対象)教育職員

(1)校種別

校種\選択肢	回答者数	肯定的			否定的		
		確保できている	やや確保できている	計	あまり確保できていない	確保できていない	計
小学校	1,862	251	846	1,097 (58.9%)	620	145	765 (41.1%)
中学校	1,368	203	579	782 (57.2%)	452	134	586 (42.8%)
高等学校	840	169	333	502 (59.7%)	245	93	338 (40.3%)
特別支援学校	498	102	224	326 (65.5%)	139	33	172 (34.5%)
公立学校 計	4,568	725	1,982	2,707 (59.3%)	1,456	405	1,861 (40.7%)

(2)職名別

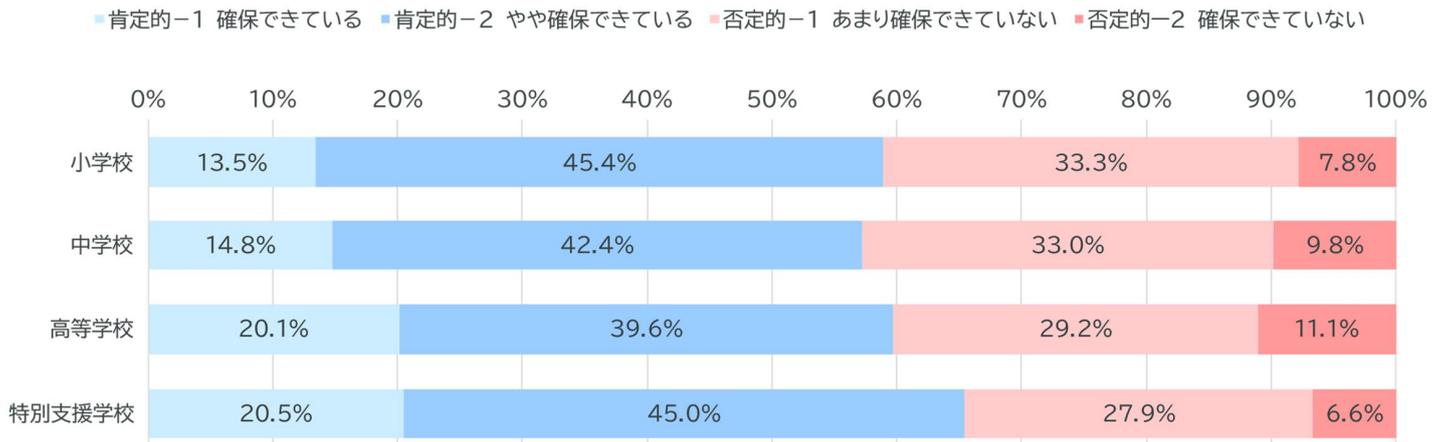
職名\選択肢	回答者数	肯定的			否定的		
		確保できている	やや確保できている	計	あまり確保できていない	確保できていない	計
校長・教頭	538	104	246	350 (65.0%)	165	23	188 (35.0%)
教諭・講師	3,695	523	1,567	2,090 (56.6%)	1,234	371	1,605 (43.4%)
養護教諭・養護助教諭	250	67	131	198 (79.2%)	43	9	52 (20.8%)
実習助手	63	21	30	51 (80.9%)	11	1	12 (19.1%)
その他	22	10	8	18 (81.9%)	3	1	4 (18.1%)
公立学校 計	4,568	725	1,982	2,707 (59.3%)	1,456	405	1,861 (40.7%)

・こどもと向き合う時間が「確保できている」又は「やや確保できている」と回答した職員の割合は、県全体で59.3%となっている。

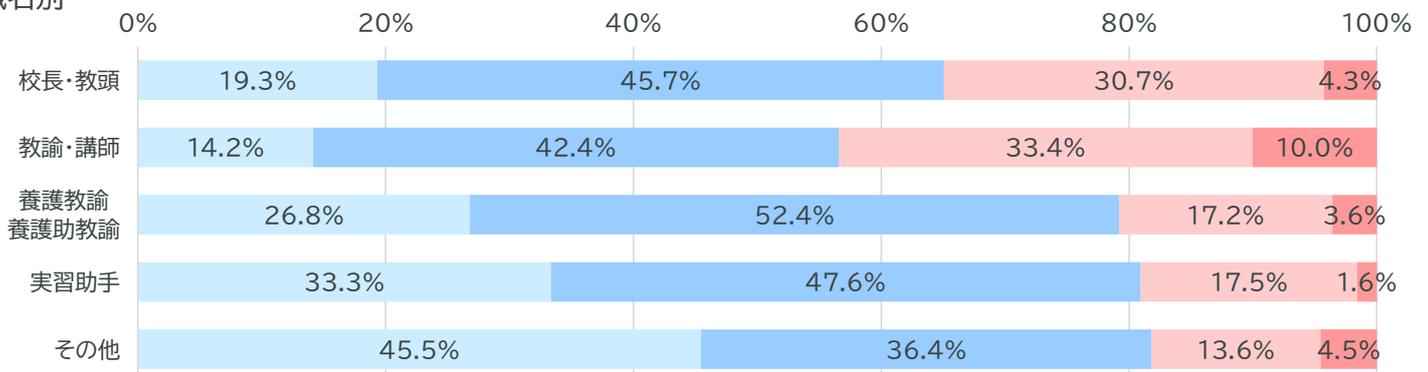
・校種別ではいずれも60%前後と大きな差は見られない一方、職名別では「教諭・講師」のみ6割を下回った。

【参考】子どもと向き合う時間の確保の状況

(1)校種別



(2)職名別



3 勤務時間の意識

(設問)働くに当たって、勤務時間を意識していますか。(単一回答)
(対象)全教職員

(1)校種別

校種\選択肢	回答者数	肯定的			否定的		
		意識している	やや意識している	計	あまり意識していない	意識していない	計
小学校	1,950	896	780	1,676 (85.9%)	227	47	274 (14.1%)
中学校	1,424	556	530	1,086 (76.3%)	254	84	338 (23.7%)
高等学校	922	421	273	694 (75.3%)	155	73	228 (24.7%)
特別支援学校	519	279	176	455 (87.7%)	53	11	64 (12.3%)
公立学校 計	4,815	2,152	1,759	3,911 (81.2%)	689	215	904 (18.8%)

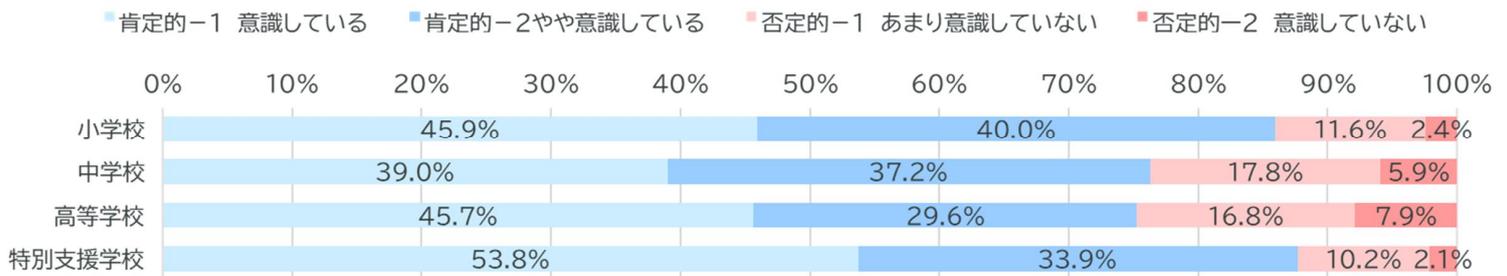
(2)職名別

職名\選択肢	回答者数	肯定的			否定的			
		意識している	やや意識している	計	あまり意識していない	意識していない	計	
教育職員	校長・教頭	538	357	141	498 (92.6%)	34	6	40 (7.4%)
	教諭・講師	3,695	1,465	1,426	2,891 (78.2%)	604	200	804 (21.8%)
	養護教諭・養護助教諭	250	127	93	220 (88.0%)	27	3	30 (12.0%)
	実習助手	63	30	22	52 (82.5%)	7	4	11 (17.5%)
	その他	22	14	6	20 (90.9%)	2	2	4 (9.1%)
教育職員 計	4,568	1,993	1,688	3,681 (80.6%)	674	213	887 (19.4%)	
事務職員等	事務職員	224	142	67	209 (93.3%)	13	2	15 (6.7%)
	技能職員	21	16	3	19 (90.5%)	2	0	2 (9.5%)
	栄養職員	2	1	1	2 (100.0%)	0	0	0 (0.0%)
事務職員等 計	247	159	71	230 (93.1%)	15	2	17 (6.9%)	
公立学校 計	4,815	2,152	1,759	3,911 (81.2%)	689	215	904 (18.8%)	

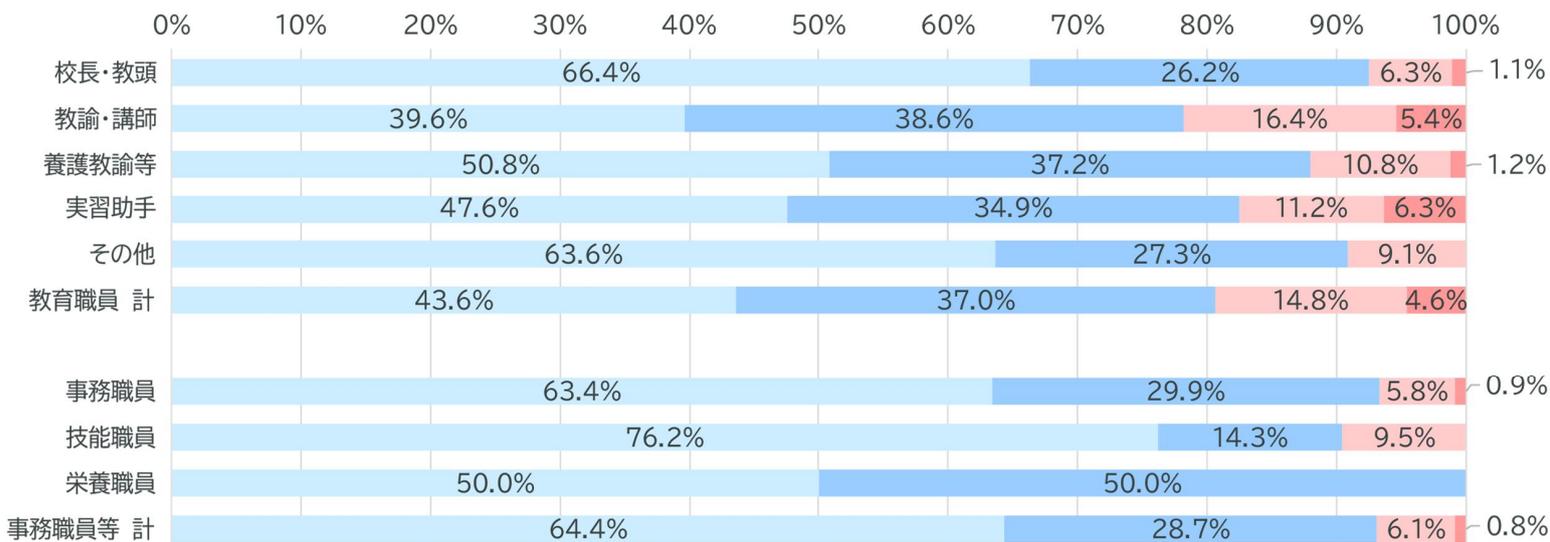
- ・勤務時間を「意識している」又は「やや意識している」職員の割合は、県全体で81.2%となっている。
- ・校種別では小学校と特別支援学校が意識している割合がやや高く、中学校・高等学校と比較すると10ポイント程度高くなっている。職名別では「教諭・講師」のみ8割を下回っており、「校長・教頭」と比較すると10ポイント以上低くなっている。

【参考】勤務時間の意識

(1)校種別



(2)職名別



【参考】令和4年度との比較（県立学校）

○こどもと向き合う時間の確保の状況

職名\選択肢	令和7年度				令和4年度				比較 (a)-(b)
	回答者数	肯定的			回答者数	肯定的			
確保できている		やや確保できている	計 (a)	確保できている		やや確保できている	計 (b)		
校長・教頭	76	21	37	58 (76.3%)	66	22	23	45 (68.2%)	8.1
教諭・講師	1,150	204	473	677 (58.9%)	1,631	399	860	1,259 (77.2%)	▲18.3
養護教諭・養護助教諭	47	18	21	39 (83.0%)	52	19	24	43 (82.7%)	0.3
実習助手	63	21	30	51 (80.9%)	91	27	52	79 (86.8%)	▲5.9
その他	16	8	5	13 (81.3%)	37	19	16	35 (94.6%)	▲13.3
県立学校 計	1,352	272	566	838 (62.0%)	1,877	486	975	1,461 (77.8%)	▲15.8

※令和4年度は紙媒体での実施のため、職名が未回答又は問への回答が未回答のものを除く。

○勤務時間の意識

職名\選択肢	令和7年度				令和4年度				比較 (c)-(d)
	回答者数	肯定的			回答者数	肯定的			
		意識している	やや意識している	計 (c)		意識している	やや意識している	計 (d)	
校長・教頭	76	61	13	74 (97.4%)	75	59	14	73 (97.3%)	0.1
教諭・講師	1,150	503	375	878 (76.3%)	1,598	693	570	1,263 (79.0%)	▲2.7
養護教諭・養護助教諭	47	28	14	42 (89.4%)	51	19	24	43 (84.3%)	5.1
実習助手	63	30	22	52 (82.5%)	92	42	34	76 (82.6%)	▲0.1
その他	16	11	4	15 (93.8%)	38	25	12	37 (97.4%)	▲3.6
教育職員 計	1,352	633	428	1,061 (78.5%)	1,854	796	620	1,492 (80.5%)	▲2.0
事務職員	84	57	23	80 (95.2%)	131	94	32	126 (96.2%)	▲1.0
技能職員	18	15	2	17 (94.4%)	48	29	17	46 (95.8%)	▲1.4
栄養職員	1		1	1 (100.0%)	7	6	1	7 (100.0%)	0
事務職員等 計	103	72	26	98 (95.1%)	186	129	50	179 (96.2%)	▲1.1
県立学校 計	1,455	705	454	1,159 (79.7%)	2,040	925	670	1,671 (81.9%)	▲2.2

※令和4年度は紙媒体での実施のため、職名が未回答又は問への回答が未回答のものを除く。

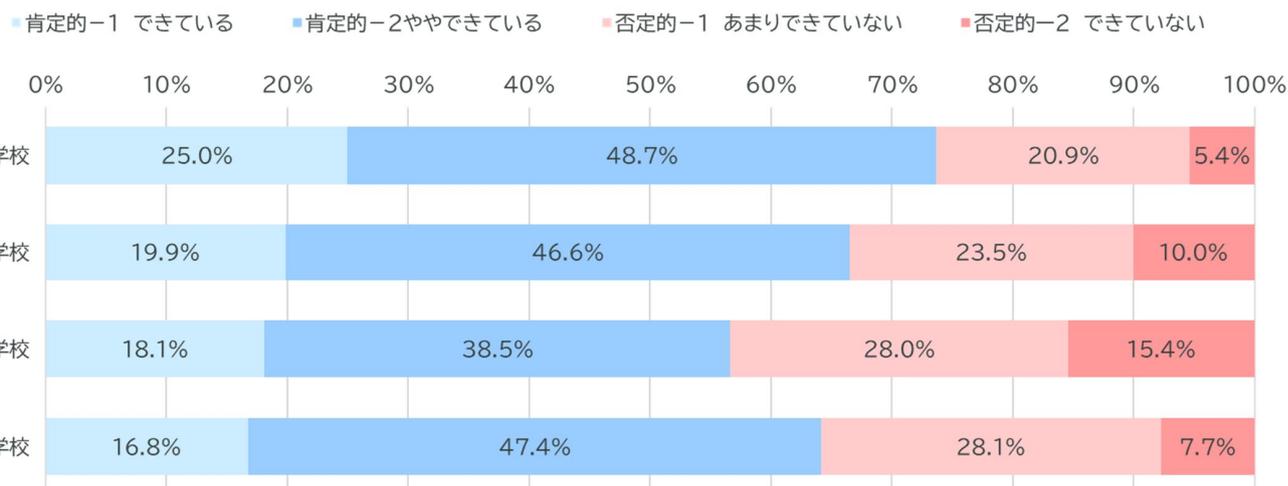
4 働きやすい学校づくり

(設問)働きやすい学校づくりに向けて、会議や打合せの時間に、日々の業務に関する気付きや改善策等について、職員間で気軽に話し合ったり、アイデアを出し合うことができていると感じますか。(単一回答)

(対象)全教職員

(1)校種別

校種\選択肢	回答者数	肯定的			否定的		
		できている	ややできている	計	あまりできていない	できていない	計
小学校	1,950	487	950	1,437 (73.7%)	408	105	513 (26.3%)
中学校	1,424	283	664	947 (66.5%)	334	143	477 (33.5%)
高等学校	922	167	355	522 (56.6%)	258	142	400 (43.4%)
特別支援学校	519	87	246	333 (64.2%)	146	40	186 (35.8%)
公立学校 計	4,815	1,024	2,215	3,239 (67.3%)	1,146	430	1,576 (32.7%)



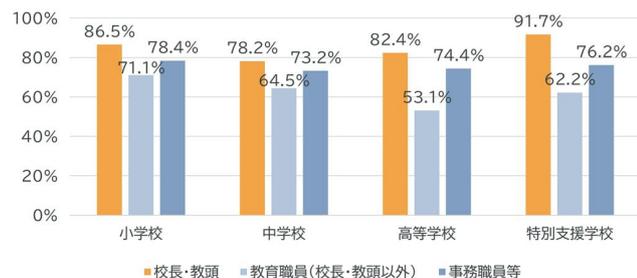
4 働きやすい学校づくり

(2)職名別

職名\選択肢		回答者数	肯定的			否定的		
			できている	ややできている	計	あまりできていない	できていない	計
教育職員	校長・教頭	538	165	285	450 (83.6%)	76	12	88 (16.4%)
	教諭・講師	3,695	732	1,655	2,387 (64.6%)	927	381	1,308 (35.4%)
	養護教諭・養護助教諭	250	37	122	159 (63.6%)	66	25	91 (36.4%)
	実習助手	63	11	29	40 (63.5%)	19	4	23 (36.5%)
	その他	22	5	11	16 (72.7%)	6		6 (27.3%)
教育職員 計		4,568	950	2,102	3,052 (66.8%)	1,094	422	1,516 (33.2%)
事務職員等	事務職員	224	66	107	173 (77.2%)	44	7	51 (22.8%)
	技能職員	21	8	6	14 (66.7%)	6	1	7 (33.3%)
	栄養職員	2			(0.0%)	2		2 (100.0%)
	事務職員等 計	247	74	113	187 (75.7%)	52	8	60 (24.3%)
公立学校 計		4,815	1,024	2,215	3,239 (67.3%)	1,146	430	1,576 (32.7%)

※肯定的な回答をした割合(校長・教頭との比較)

校種\職名	校長・教頭	教育職員(校長・教頭以外)	事務職員等
小学校	86.5%	71.1% (▲15.4)	78.4% (▲8.1)
中学校	78.2%	64.5% (▲13.7)	73.2% (▲5.0)
高等学校	82.4%	53.1% (▲29.3)	74.4% (▲8.0)
特別支援学校	91.7%	62.2% (▲29.5)	76.2% (▲15.5)



• 気軽に話し合ったり、アイデアを出し合うことが「できている」又は「ややできている」と感じている割合は、県全体で67.3%となっており、小学校、中学校、特別支援学校、高等学校の順にポイントが低くなっている。

• 肯定的な回答をした職員の割合について、校長・教頭とその他の職員とを比較すると、校種・職名の別を問わず、いずれも校長・教頭の方が高い結果となっており、小・中学校の教育職員では約15ポイント、高等学校・特別支援学校の教育職員では約30ポイントの差が見られる。事務職員等は校種によってばらつきが見られた。

5 負担感や多忙感を解消してほしいと思う業務

(設問)負担感や多忙感を解消してほしいと思う業務を選択してください。(複数回答・最大5つ)
(対象)教育職員

(1)小学校

業務カテゴリー	回答者数	①職名別			②分掌別			③部活動・委員会				
		校長・教頭	教諭・講師	その他	学級担任	主任等	その他	運動部顧問	文化部顧問	委員会	その他	
1:授業	8	118	0	100	47	15	1	1	98	32		
2:免許外の授業	1	37	2	22	10	12	2	1	34	6		
3:学習会など、授業以外の学習指導	4	88	1	72	36	10	0	0	78	16		
4:授業準備	4	179	1	153	55	23	4	1	159	32		
5:採点・学習評価・成績処理	17	302	1	251	118	48	1	4	276	53		
6:学級・学年経営	2	58	0	53	21	4	0	1	47	15		
7:登下校指導	26	193	9	149	76	51	1	4	171	62		
8:生徒指導(問題行動・補導案件への対応を含む)	102	419	10	331	210	142	3	7	367	168		
9:児童生徒の休み時間における対応	32	283	14	224	111	76	3	5	261	77		
10:清掃指導・校内清掃	8	93	28	68	40	44	5	1	110	21		
11:部活動等に係る指導・引率	14	37	2	27	19	19	8	10	30	15		
12:給食指導	6	81	9	64	30	18	1	0	80	19		
13:学校行事	16	284	26	232	141	49	4	2	279	52		
14:進路指導	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0		
15:支援が必要な児童生徒への対応	114	511	37	396	244	186	4	7	472	195		
16:教職員間の調整・対応	25	127	9	81	74	50	3	0	105	61		
17:分掌業務	11	424	38	340	229	68	4	5	417	71		
18:会計業務	62	457	11	400	194	85	7	7	427	116		
19:調査への回答・報告書等の書類作成	168	519	50	380	290	248	2	7	477	267		
20:ICT環境の整備・活用	26	201	11	144	101	50	2	3	179	66		
21:学校広報(HPやSNSの運用等)	22	27	0	22	14	22	1	1	25	24		
22:校内巡視・宿日直・開錠施錠	35	102	20	78	52	61	2	5	104	56		
23:時間外の電話対応(朝の欠席連絡等を含む)	42	182	9	141	83	64	3	4	161	73		
24:保護者対応	126	445	16	353	206	159	5	7	413	181		
25:地域との協働(地域ボランティアとの連絡調整、地域行事等)	42	99	13	84	58	52	2	5	97	56		
26:行政機関への対応(学校訪問、各種事業、連絡調整等)	90	218	10	154	128	106	4	3	191	128		
27:会議・打合せ(校内外問わず)	30	159	31	111	79	75	4	2	165	59		
28:研修(校内外問わず)	14	134	14	101	60	37	1	1	133	36		
29:PTAの事務局業務・大会等の運営	101	65	10	49	30	112	3	3	57	121		
30:教育研究会の事務局業務・大会等の運営	69	110	23	79	72	94	1	3	118	86		
31:中体連・中文連の事務局業務・大会等の運営	1	6	4	5	4	3	0	0	9	2		
32:29～31以外の団体に関する業務	15	20	14	13	13	29	0	1	30	21		
その他	5	40	23	25	28	28	1	0	50	17		

【参考】負担感や多忙感を解消してほしいと思う業務の具体的な内容(小学校)

共:共助(学校・関係団体) 公:公助(行政)

○調査への回答・報告書等の書類作成

- 公 調査関係の書類の作成に時間がかかる。最近は文章やファイルをダウンロードしてくださいということが非常に多く、またその量も多いため非常に手間がかかる。全国、県、市、それぞれ出さなければならない場合もあり、非常に煩わしい(学力テスト、体力テスト等)。(八戸市)
- 公 以前より減ってきているが、果たしてこの調査は一体何のために?と思うことがある。調査結果を受けて学校現場に何らかの恩恵があればいいが、結果こうなりました、ただだと時間をかけてまとめたのに、という気持ちになる。(七戸町)

○支援が必要な児童生徒への対応

- 共 公 特別支援学級担任だが、休み時間も常に見守りが必要で、空き時間もないため、特別支援の書類作成は常に放課後になってしまうので大変である。(五所川原市)
- 公 困り感を抱えた児童に対して支援を行う支援員をもっと配属していただきたい。担任1人だと全ての児童のために授業や活動を円滑に進めたいのにそうならないことが多々ある。(青森市)

○保護者対応

- 共 公 こどもが親に話したことだけを信じ、学校での様子を伝えても、なかなか納得してもらえない時があり、先生方の負担になっているように感じる。そういった場合、第三者に立ち会ってもらいたいのもよいのかもしれないと感じている。(八戸市)
- 共 公 SNS上の問題は、保護者同士で解決して欲しい。教師が見てもいない動画や写真の事を聞きとり、両方の保護者への事情説明をしている。大変デリケートで難しい。(弘前市)

(紹介)他校の先生からおすすめの取組

- 保護者の話の主訴を捉えるように傾聴し、学校は分かってくれる、対応してくれる、ということを実感してもらうことで信頼を得ることができ、保護者対応が激減している。(八戸市)

共：共助(学校・関係団体) 公：公助(行政)

○会計業務

- 共 公 学校によってやり方が違う。職員が行うのであれば、処理の仕方や会計簿作成のマニュアルを作成するなど、やり方を統一して欲しい。(青森市)
- 共 公 経理の仕事には多大な時間を要する。授業も行っているため、銀行に行くのも難しい時もある。給食が食べられず、午後の業務になることもある。(青森市)
- 共 公 会計業務を全て学級担任が請け負っている。通知票作成時期と会計時期が重なっているため、担任以外の先生にお願いしたい。(弘前市)

(紹介)他校の先生からおすすめの取組

- 会計業務は担任以外の先生方で分担する。学級担任は通知表、担任以外は会計、というように同時期に別な仕事をしている。(弘前市)
- 学級会計管理ソフトの開発。出納簿を入力すると決算書に反映される仕組みを作ったところ好評であった。(平川市)
- 賛否両論あるが、学校徴収金関係業務の一括管理。学校事務の手間は少なからず増えるが、職場全体で見ると1人1人の負担は確実に減っている。(野辺地町)

○分掌業務

- 共 小規模校なので、複数の分掌の仕事をしなければならない。(弘前市)
- 共 業務の偏りがあり、楽な教員とそうでない教員の格差が激しい。特にICTや体育主任などは若い男性に偏っている傾向にある。ICTなどはこのご時世使わねばならないのに、調べれば出てくることすら聞かれて、担当に丸投げしてくることもある。(平内町)

(紹介)他校の先生からおすすめの取組

- 年度終わりに教職員全員で、一年間学校のためにしてきた業務や小教研での活動などを書き出し、業務の割振りを確認する。(平内町)
- 事務作業の効率化のために、PCスキルの向上を行った。(五所川原市)

5 負担感や多忙感を解消してほしいと思う業務

(2)中学校

業務カテゴリー	回答者数	①職名別			②分掌別			③部活動・委員会			
		校長・教頭	教諭・講師	その他	学級担任	主任等	その他	運動部顧問	文化部顧問	委員会	その他
1:授業	174	8	56	0	35	20	17	37	11	31	11
2:免許外の授業	38	207	0	113	105	70	129	48	125	49	
3:学習会など、授業以外の学習指導	2	62	0	37	23	14	42	12	38	5	
4:授業準備	4	71	0	36	24	21	42	15	44	10	
5:採点・学習評価・成績処理	6	146	0	95	49	29	101	31	78	11	
6:学級・学年経営	0	51	0	34	22	3	34	11	25	3	
7:登下校指導	6	89	4	43	41	23	53	22	50	12	
8:生徒指導(問題行動・補導案件への対応を含む)	36	249	12	149	108	71	178	53	146	48	
9:児童生徒の休み時間における対応	5	95	9	50	45	26	58	22	62	13	
10:清掃指導・校内清掃	5	65	14	42	34	19	42	16	47	13	
11:部活動等に係る指導・引率	47	619	15	352	296	136	503	116	329	63	
12:給食指導	4	38	2	25	14	13	28	7	25	6	
13:学校行事	6	112	12	57	61	29	76	28	70	15	
14:進路指導	1	26	0	8	19	3	14	9	14	2	
15:支援が必要な児童生徒への対応	32	271	15	156	128	74	186	52	160	51	
16:教職員間の調整・対応	27	123	9	67	71	45	86	27	63	35	
17:分掌業務	6	242	19	139	144	39	176	44	142	20	
18:会計業務	33	184	6	91	117	58	139	41	105	41	
19:調査への回答・報告書等の書類作成	114	342	28	187	216	161	255	61	210	133	
20:ICT環境の整備・活用	16	116	6	62	65	34	87	19	66	23	
21:学校広報(HPやSNSの運用等)	15	15	0	10	6	18	11	5	9	14	
22:校内巡視・宿日直・開錠施錠	11	62	6	37	25	24	41	21	40	13	
23:時間外の電話対応(朝の欠席連絡等を含む)	18	144	9	90	64	38	109	28	86	23	
24:保護者対応	43	273	12	156	134	74	211	45	148	56	
25:地域との協働(地域ボランティアとの連絡調整、地域行事等)	30	109	9	54	57	51	81	17	70	34	
26:行政機関への対応(学校訪問、各種事業、連絡調整等)	56	164	7	75	109	77	123	32	88	62	
27:会議・打合せ(校内外問わず)	18	132	16	66	82	41	96	27	81	24	
28:研修(校内外問わず)	5	97	6	49	54	24	72	13	53	11	
29:PTAの事務局業務・大会等の運営	63	65	5	40	34	72	48	10	45	65	
30:教育研究会の事務局業務・大会等の運営	42	86	13	49	55	55	56	21	50	47	
31:中体連・中文連の事務局業務・大会等の運営	32	187	9	115	93	56	157	20	117	40	
32:29~31以外の団体に関する業務	9	20	10	12	16	15	13	7	20	12	
その他	3	37	8	22	22	8	25	11	26	5	

【参考】負担感や多忙感を解消してほしいと思う業務の具体的な内容（中学校）

共：共助(学校・関係団体) 公：公助(行政)

○部活動等に係る指導・引率

- 共 大会が多すぎる。熱中症の心配のある時期の大会の設定はやめてほしい。(五戸町)
- 共 公 練習着などの生徒の注文、選手登録の手続、それに伴う銀行での支払いなど間違っはいけないことなので負担が大きい。(八戸市)
- 共 主顧問一人体制なので、副顧問がいれば平日、休日を問わず、交代で指導できる。(青森市)

(紹介)他校の先生からおすすめの取組

- 現在の所属校ではないが、他県では、部活動の時間を勤務時間内に収める取組や、定められた部活動時間以外の指導(勤務時間外の場合)は保護者にスイッチするという対応が普通に行われていた。例えば午後4時30分までは教員が見る、それ以降は見てくれる保護者がいる場合はそちらにお願いする、誰も配置できない場合は早めに活動を切り上げるなど、ハイブリットな形でも良いと感じる。(弘前市)
- 部活動休止日を平日に2日導入していた学校は働きやすかった(部活動については、生徒のアンケートで平日3日の活動を希望する割合が一番多かったため、そのようにしていた)。(青森市)

(紹介)他県の取組

- 部活動顧問を屋内部活動の顧問と屋外部活動の顧問との2種類にし、複数人で担当している学校があります。
- 部活動の在り方について、教員だけでなく、保護者・地域指導者・地域住民・生徒と一緒に話し合う場を設けている学校があります。

○調査への回答・報告書等の書類作成

- 公 同じような内容の調査・報告が別々の部署や課から来るものもあるので、できるだけまとめて(情報を上の方で共有して)もらえれば負担がかなり減ると思います。(弘前市)
- 公 教育委員会で把握しているはずの生徒の異動や特別支援学級の生徒の障害種・判定日等について、詳細な報告を求められる。(八戸市)

【参考】負担感や多忙感を解消してほしいと思う業務の具体的な内容（中学校）

共：共助(学校・関係団体) 公：公助(行政)

○保護者対応

- 共 公 遅い時間に保護者からかかってくる電話の内容が、複数の生徒が関係する生徒指導上のトラブルだったり、元々は家庭で解決する事案だったりする。(弘前市)
- 共 公 保護者からの不当で過剰な要求や問題のすり替えに神経をすり減らすこともあり、専門家(警察、弁護士、医師、カウンセラーなど)から直接、本人・保護者への指導や助言がほしいと思うことが多々ある。(青森市)

(紹介)他校の先生からおすすめの取組

- 勤務時間外を留守番電話対応にすることで、時間的にも精神的にもゆとりが生まれた。(むつ市)
- 保護者の話の主訴を捉えるように傾聴し、学校は分かってくれる、対応してくれる、ということを実感してもらうことで信頼を得ることができ、保護者対応が激減している。(八戸市)(再掲)

○支援が必要な児童生徒への対応

- 共 不登校生徒について、できるだけ勤務時間内に生徒・保護者対応できるように時間的余白がほしい。(青森市)
- 共 集団に入れず、個別対応をしなければいけない生徒が多く、職員が休みなく対応している。(七戸町)

○生徒指導(問題行動・補導案件への対応を含む)

- 共 公 学校外のトラブルの対応。放課後公園で遊んでいてうるさいとか、下校後、自転車の乗り方が危ないなど、地域の苦情がすべて学校に来ること。(青森市)
- 共 急な生徒指導のため、21時以降に家庭訪問に行かされる。(五戸町)

○行政機関への対応(学校訪問、各種事業、連絡調整等)

- 公 教育事務所や教育委員会の学校訪問は、果たして教員のためになっているのか?と感じる。指導案の作成など、非常に負担である。授業を参観した後、急ぎ足でアドバイスをいただいても、研修したという充実感はない。授業を終えて、ああすれば良かった、こうすれば良かった、と言われるのも、後味が悪い。指導案は展開部分だけ、もしくは2年に1回にするなど、改革がほしい。(八戸市)

5 負担感や多忙感を解消してほしいと思う業務

(3)高等学校

業務カテゴリー	回答者数	①職名別			②分掌別			③部活動・委員会			
		校長・教頭	教諭・講師	その他	HR担任	主任等	その他	運動部顧問	文化部顧問	委員会	その他
1:授業		51	710	79	263	222	396	491	271	175	95
2:免許外の授業		0	48	2	16	14	24	33	14	18	3
3:講習など、授業以外の学習指導		2	16	0	5	5	8	8	6	7	3
4:授業準備		3	89	5	32	21	46	58	36	21	7
5:採点・学習評価・成績処理		0	37	1	9	7	23	25	13	11	2
6:模試・検定試験の運営・監督		4	129	5	59	32	56	84	46	27	10
7:学級・学科(部)・学年経営		7	78	2	41	19	31	50	30	11	8
8:登下校指導		0	27	0	19	7	3	18	9	5	0
9:生徒指導(問題行動・補導案件への対応を含む)		0	24	0	9	2	15	20	6	7	1
10:児童生徒の休み時間における対応		11	124	8	60	51	41	86	41	24	16
11:清掃指導・校内清掃		0	18	4	7	6	10	10	10	10	1
12:部活動に係る指導・引率		1	25	6	5	4	24	16	14	11	1
13:給食指導		15	291	27	116	82	142	235	88	60	20
14:学校行事		0	2	0	0	2	0	1	1	1	1
15:進路指導		2	56	7	16	14	39	38	23	19	6
16:支援が必要な児童生徒への対応		1	48	4	26	11	18	34	18	10	2
17:教職員間の調整・対応		11	134	11	67	42	63	84	56	36	20
18:分掌業務		10	120	14	52	39	63	86	42	34	16
19:会計業務		1	171	17	42	64	98	99	80	47	13
20:調査への回答・報告書等の書類作成		10	126	10	65	29	60	84	55	23	16
21:ICT環境の整備・活用		21	203	19	63	84	106	140	75	45	36
22:学校広報(HPやSNSの運用等)		7	114	12	36	35	71	71	51	28	18
23:校内巡視・舎監業務・開錠施設		4	23	1	8	8	12	18	9	5	6
24:入学者選抜業務		2	22	5	10	8	12	14	8	8	5
25:時間外の電話対応(朝の欠席連絡等を含む)		4	76	6	12	33	42	43	34	18	11
26:保護者対応		2	33	1	19	5	15	22	12	9	5
27:地域との協働(評議員・外部コーチ等との連絡調整、地域行事等)		15	135	5	64	45	56	92	48	25	20
28:外部機関との連携(大学、民間企業)		9	38	2	9	12	29	21	19	12	12
29:行政機関への対応(学校訪問、各種事業、連絡調整等)		1	28	1	8	12	11	15	13	8	2
30:会議・打合せ(校内外問わず)		11	49	5	9	30	28	30	24	11	15
31:研修(校内外問わず)		15	157	8	57	54	82	102	57	36	23
32:PTAの事務局業務・大会等の運営		2	99	8	48	23	52	74	30	24	4
33:教育研究会の事務局業務・大会等の運営		6	30	2	3	11	26	18	10	11	9
34:高体連・高文連の事務局業務・大会等の運営		9	47	9	13	18	36	28	22	14	13
35:特スポ・技能検定の事務局業務・大会等の運営		11	112	10	43	32	61	99	24	25	12
36:32~35以外の団体に関する業務		0	16	1	5	7	6	11	5	3	3
その他		4	17	4	6	8	13	13	6	6	6
		1	26	4	12	12	14	17	10	5	4

【参考】負担感や多忙感を解消してほしいと思う業務の具体的な内容(高等学校)

共:共助(学校・関係団体) 公:公助(行政)

○部活動等に係る指導・引率

共 公 平日は午後7時まで部活動、その後、事務処理等で午後9時になってしまう。土日も練習試合や大会があるうえに、競技役員になると審判や運営等の業務も振られ、さらなる負担を強いられる。

共 公 安全のため、放課後や休日に部活動の監督をしている。外部コーチも頻りに指導しているが、監督責任がないため自分がかざるを得ない。大会引率や大会補助もあり、特に大会引率では宿泊先や交通手段の手配、集金や決算等がある。また昨年度までは、部活動関係の協会事務局業務もあり、本来業務や家庭の時間に支障をきたしている。

(紹介)他校の先生からおすすめの取組

・部活動の指針を守ること。顧問3人のうち、2人が子育て中なので、日曜日は休み、水曜日も休みにしている。学習を第一に考え、長期休業中は土日は部活動なし、練習時間も休日は3時間である。

(紹介)他県の取組

・部活動顧問を屋内部活動の顧問と屋外部活動の顧問との2種類にし、複数人で担当している学校があります。(再掲)
・部活動の在り方について、教員だけでなく、保護者・地域指導者・地域住民・生徒と一緒に話し合う場を設けている学校があります。(再掲)

○調査への回答・報告書等の書類作成

公 毎年実施される同種の調査に対し、実質的な改善が見られないと感じる。形骸化した調査への回答に時間を費やすことは、教員の負担を増やすだけで、生産性も低い。調査の目的やその後の具体的な改善プロセスを明確に示していただくか、教員が本来業務に集中できるような配慮をお願いしたい。

公 似たような調査の報告書が非常にわずらわしい。大きい学校ほど調査の対象校にもなりやすく、負担が偏っていると感じる。

共：共助(学校・関係団体) 公：公助(行政)

○分掌業務

- 共 多数の委員会等に所属しているため、会議の数が多く、本来の校務の時間が取れない。
- 共 事務作業と生徒対応のバランスがとれていない。担任として生徒と接する時間が欲しいが、生徒の動向を把握しやすい立場から、分掌業務を依頼されることも多く、「何でも担任」という状況になっている。

(紹介)他校の先生からおすすめの取組

- 年度終わりに教職員全員で一年間学校のためにしてきた業務や小教研での活動などを書き出し、業務の割振りを確認する。(平内町)(再掲)
- 一つの業務の中に複数の作業があるので、分担を細分化する。会議日程を決める、会議室の予約(zoom)を入れる、会議の資料を作る、会議の記録を整理する。担当分掌だけでなく、他の分掌にも割り振ってよいと思う。

○会議・打合せ(校内外問わず)

- 共 会議の数がとにかく多い。会議の招集人数が多過ぎ、かつ固定化している。一言も発せず終わる会議が多い。関係のある人、意見を言いたい人が集まるべき。思いきって会議や仕事を削減する姿勢が管理職に見られない。
- 共 コロナ禍の最中、会議や打ち合わせを必ずしも対面で行わなくてもできるようになったのに、元の状況に戻ってしまっている。

○支援が必要な児童生徒への対応

- 共 特別支援や配慮を要する生徒が多くいるが、担当外だと捉えている職員が多くいるように感じるので、教師の専門性の一つとして必須のもの捉え、誰もが指導や支援してほしい。
- 共 公 個に応じた指導を必要とする生徒が多く、TTでないと対応が困難なクラスが多い。加配がなされると、特に実習を含む科目は困難を極める。

5 負担感や多忙感を解消してほしいと思う業務

(4)特別支援学校

業務カテゴリー	回答者数	①職名別			②分掌別			③部活動・委員会			
		校長・教頭	教諭・講師	その他	HR担任	主任等	その他	運動部顧問	文化部顧問	委員会	その他
1:授業	24	428	46	323	107	117	41	7	130	333	
2:免許外の授業	0	22	2	17	7	3	3	0	4	17	
3:講習など、授業以外の学習指導	0	48	0	37	6	9	7	1	19	26	
4:授業準備	0	11	0	10	1	1	1	0	5	5	
5:採点・学習評価・成績処理	0	58	2	46	9	12	8	0	14	39	
6:模試・検定試験の運営・監督	0	54	0	46	9	7	7	0	17	32	
7:学級・学科(部)・学年経営	0	5	0	4	0	1	0	0	1	5	
8:登下校指導	0	22	0	13	9	2	3	1	6	13	
9:生徒指導(問題行動・補導案件への対応を含む)	3	28	1	23	6	5	0	0	8	25	
10:児童生徒の休み時間における対応	0	19	0	15	1	3	3	0	4	13	
11:清掃指導・校内清掃	2	68	2	55	13	12	0	1	14	57	
12:部活動に係る指導・引率	0	13	1	12	2	1	9	1	4	0	
13:給食指導	0	8	3	6	1	4	3	0	4	6	
14:学校行事	3	111	7	88	21	27	10	3	39	72	
15:進路指導	0	7	0	4	1	2	1	0	3	4	
16:支援が必要な児童生徒への対応	3	43	5	30	11	13	9	0	17	27	
17:教職員間の調整・対応	5	102	10	69	33	24	7	1	24	88	
18:分掌業務	1	179	6	144	44	25	17	3	62	110	
19:会計業務	1	91	6	72	16	18	9	1	25	66	
20:調査への回答・報告書等の書類作成	11	104	9	70	40	26	11	3	24	89	
21:ICT環境の整備・活用	3	55	1	46	11	13	2	0	15	42	
22:学校広報(HPPやSNSの運用等)	0	14	1	7	8	3	1	0	3	11	
23:校内巡視・舎監業務・開錠施設	7	19	2	12	7	10	4	0	4	20	
24:入学者選抜業務	0	6	0	5	1	0	2	1	3	2	
25:時間外の電話対応(欠席連絡等を含む)	1	16	0	13	6	1	2	1	3	12	
26:保護者対応	2	32	4	23	8	7	3	2	7	27	
27:地域との協働(評議員・外部コーチ等との連絡調整・地域行事等)	3	15	0	10	7	3	2	0	5	12	
28:外部機関との連携(大学・民間企業)	1	6	0	4	2	1	2	0	2	5	
29:行政機関への対応(学校訪問・各種事業・連絡調整等)	5	26	4	20	11	10	3	0	9	25	
30:会議・打合せ(校内外問わず)	10	137	9	101	38	36	3	1	45	111	
31:研修(校内外問わず)	0	92	7	80	16	17	5	1	43	54	
32:PTAの事務局業務・大会等の運営	5	26	1	22	7	7	4	0	5	23	
33:教育研究会の事務局業務・大会等の運営	7	31	3	24	10	14	3	1	10	27	
34:高体連・高文連の事務局業務・大会等の運営	0	2	0	0	1	1	2	0	0	0	
35:特スポ・技能検定の事務局業務・大会等の運営	8	42	1	29	13	15	5	2	16	31	
36:32~35以外の団体に関する業務	1	6	1	4	2	2	2	0	1	5	
その他	2	27	7	19	10	10	4	1	9	23	

○分掌業務

- 共 学級のことが後回しになるほど分掌業務が忙しい年がある。分掌主任は担任を持たないなどできないか。また、前年度担当者が記録をしっかり残しているかいないかで、円滑に進められるかが決まる。
- 共 分掌業務が多い。前例踏襲の考え方をやめ、本当に必要なものを行うようにしたいが、それを話し合う時間もなく個人の裁量任せになっている。

(紹介)他校の先生からおすすめの取組

- 一つの業務の中に複数の作業があるので、分担を細分化する。会議日程を決める、会議室の予約(zoom)を入れる、会議の資料を作る、会議の記録を整理する。担当分掌だけでなく、他の分掌にも割り振ってよいと思う。会議予約はICT支援部員が行っている。(再掲)
- 夏季休業中の分掌部会にて、飲み物を持ち寄り、現在までの業務についてや学校内のこと等について、記録は取らず、おしゃべり感覚で話をした。いろいろと思いや考えを出してくれた。

○会議・打合せ(校内外問わず)

- 共 終業時間が過ぎても会議が終わらなかつたり、2時間以上の会議が多かつたりする。
- 共 会議が多いこと、そして長いことに負担感がある。会議の緊急性・重要性に応じて、会議する人員を少数に精査した方が、会議の質が上がると思われる。
- 共 ルールに則って会議に参加してほしい。意見がある方は、会議の場で発言してほしい。

(紹介)他校の先生からおすすめの取組

- 年度初めや提出物が重なる時期、会議が調整され、空き時間が確保された。
- 職員会議の終了時刻を設定し、職員に協力を求めた。会議の進行の上手な先生に司会をお願いしてスムーズに進行してもらった。

○調査への回答・報告書等の書類作成

- 公 毎年同じような調査がある。また、大学からの調査が多数ある。
- 公 県へ回答する文書が多く、しかも締切が短く、突発的に起こるため他の仕事との調整がしづらい。校内で起案、回答のため時間もかかる。

○学校行事

- 公 県の事業が新しく行われる度に、学校行事が増える。増えるだけで減らないため、精査してほしい。
- 共 行事や県の事業が増える一方で全く減らない。やり方を工夫して軽減してほしいと管理職は言うが、やり方を変えると決裁がおりない。業務を減らす案を出してほしいと言うのに、出した案は否定される、ということが続いている。

(紹介)他校の先生からおすすめの取組

- 行事の精選を毎年年度末反省のときに話し合うのは良かった。
- 職員から出た案をまずは、実践して検証し、その後再考したことがある。一度試してみることで見えてくるものがある。

○教職員間の調整・対応

- 共 公 共に働く上での職員間の適切なコミュニケーションの取り方、具体的には話し方や接し方について、職員一人ひとりの意識改善を図ってほしい。乱暴な言葉遣いの職員が多すぎて傷ついている職員が多数いる現状を知ってほしい。それが病休者減少につながると思う。
- 共 公 「報連相」がなされず、唐突に仕事が振られるなど周りが振り回されることが多い。通常の自分の業務以外にもその職員のフォローをしなければならず、研修機会やフォロー体制を確保してほしい。

6 業務改善について、今まで取り組んでみて、効果があったと感じる取組

(1)小学校

- ・前任校でのことだが、各自が感じている改善策などを気軽に話し合うことのできる場を設けたり雰囲気づくりをしたりすることが大切だと思う。(青森市)
- ・廊下に掲示している作品等児童の作成物に対し、先生からのコメントは書かない。発表会をした時に言葉で伝える。友達同士のコメントを付箋に書いて貼る。(弘前市)
- ・全校児童がランチルームで給食を食べるようにして、学級担任の給食指導を輪番制にすることで空き時間を生み出した。(青森市)
- ・年間の授業時数計画に余剰をもたせない(標準時数に合わせて計画を作成)。(八戸市)
- ・毎月、教育活動の振り返りを全職員が記入したり、成果や課題、改善アイデアを共有できるようにしている。様々な立場から気づいたことを共有できている。(六戸町)
- ・プール学習の地域移行。プール学習を地域の施設でインストラクターが行う。(田舎館村)
- ・授業改善のため、ロイロノート・スクールの活用法を教員に覚えてもらおうと、様々な業務でロイロノート・スクールを使い倒した。教員はロイロノート・スクールの活用法を知り、授業での活用イメージが生まれ始め、校内の授業改善につながっていった。(六ヶ所村)
- ・業間マラソン等をなくし、児童の下校時間を午後4時から午後3時30分に変えたことで、教材研究の時間確保できるようになった。(八戸市)
- ・新学期の1週間は4時間又は5時間授業にして、午後は書類整備や学級事務の時間としている。春の健康診断時期、様々な書類を整理したり、名簿を確認する時間があるのはありがたい。(青森市)
- ・合同体育にしたり、下学年の先生が上学年の授業を担当したり、時間割をうまく調整して、空き時間できるようにした。(六ヶ所村)
- ・各団体からのチラシを学級配布から玄関前チラシボックスへ。(弘前市)
- ・運動会の整列のポイントをなくした。行事の諸札を作り直さない。(弘前市)

6 業務改善について、今まで取り組んでみて、効果があったと感じる取組

(1)小学校

- ・宿題選べるウィークを設定し、宿題は「与えられるもの、いやいややるもの」という捉え方を見直すきっかけになった。宿題の回収や採点、提出物の点検の時間が減り、こどもたちとの会話が増えた。こどもたちも、自分の学びをする、という意識をもてるようになりつつある。(六戸町)
- ・宿題の丸付けをこども同士で行かせたところ宿題忘れが減り、学習意欲が高まった。(五所川原市)
- ・各種行事や取組の反省については終了後1週間以内に集計まで済ませ、次回以降の解決策まで明記している。次回以降、計画する段階で、毎回より良いものにブラッシュアップできる。実際の様子の写真も残すこともよかった。(青森市)
- ・校長先生の考え方一つで、働き方を含め、さまざまな行事、業務内容や方法などを変えたり改善したりすることができる。(青森市)
- ・年間指導計画の作成と反省の記入・学級経営案の内容の軽減(板柳町)
- ・欠席連絡のない家庭への朝の確認を、職員室にいる担任以外の職員が行う。その日の行事を、職員室の黒板ではなく、職員室に大型テレビを置きそれに映しておく。(青森市)
- ・PTAのボランティア制。環境奉仕作業の外部委託、草刈、トイレ掃除など。(おいらせ町)
- ・終業時間(午後4時30分)にチャイムを鳴らす。(八戸市)
- ・週1回のノー残業デーに集会を行っているので、必ず時間で帰りましょうと声かけがある。なかなか帰れないこともあるが、声かけされると意識して仕事を切り上げていつもより早く帰れている。(五所川原市)
- ・前任校(県外)で取り組んだこととして、土日出勤の禁止がある。はじめは午後7時に施錠。そのうち午後6時に施錠というように、市内の校長会で決めて無理矢理でも取り組んだ。はじめは文句をいう先生方も次第に早く帰るようになり、本当に必要な行事や会議が残っていった。(青森市)
- ・担当する授業時間数の少ない低学年の担任が、高学年の書写などを受け持ち、担任間で受け持つ時間数にあまり差が出ないようにした経験がある。(八戸市)

(2)中学校

- ・ 前任校では、学担以外の先生に学活や道徳をお願いし、空き時間を増やした。(弘前市)
- ・ 前任校では、勤務時間が午前7時55分ということで、生徒の登校を午前8時にしていた。また、全校朝会を止めたり、授業後の全校集会をweb集会にするなど、生徒も教員も落ち着いて過ごせて良かった。(青森市)
- ・ 作業開始時間、業間、掃除の時間を数分ずつだが短縮し、見直してくれた学校では、とても働きやすい環境に変わってきているなど実感できた。(八戸市)
- ・ 朝自習を廃止し、生徒の登校時間を遅らせた。職員の出勤が、生徒の送迎の時間と重ならないため、学校周辺の路地が渋滞せず、また、大半の生徒を教室で迎えられる。朝自習点検や準備、巡回の業務がなくなり、負担が減った。生徒の学力低下も見られない。逆に、朝ごはんを食べてくる生徒が増えたように思う。(八戸市)
- ・ 高校の体験入学や受検の引率をせず、学校業務や1,2年生の授業に支障が出ないようにした。特に小規模校は引率教師をすべての高校に派遣できないし、もっと、本人・保護者に責任をもたせる進路システムであってほしい。(青森市)
- ・ 校内研修の見直し。仰々しい研修ではなく、日々の授業を研修対象にして、取り組んでいた。細かい報告書等ではなく、簡易的な報告書としていた。(青森市)
- ・ 管理職の働き方改革に関する考えがきちんとアップデートされている学校では、時間外勤務が全体的に非常に少なかった。(弘前市)
- ・ どうしても「いつまでも残って仕事できる」風習があるので、ノー残業デーのように、学校として「学校には残れません」という雰囲気を作っていくのが大事だと思う。そうすると、学校としても勤務時間内に追われる業務量を意識できるので、外部機関からの依頼も断る(コントロールする)ようになってくると思う。(階上町)
- ・ 定時退下の日にはほとんどの教職員が定時で帰る学校があった。一人ひとりの意識があったからかもしれないが、気持ちよく帰ることができていた。また、看護休暇、部分休業、時短勤務など子育てで困ったことがあってから、そういう制度を知った。教職員全員にもそういう制度があって、必要な時に使っているということを理解してもらっていると、家庭を持ちながら仕事を続けていこう、という気持ちになれる。(今別町)

(2)中学校

- ・ 毎週水曜日は会議の日と設定し、短縮5時間授業、午後2時30分には生徒を帰す。その後、会議を1時間程度で終わらせる努力をし、残った時間を業務にあて、定時退勤する。これは自由時間が増え、身体的にも良いものだった。教頭や校長が定時退勤を催促し、半強制的に教員を帰すことも効果の一つだった。(黒石市)
- ・ 業務改善と教育目標の両方の視点から、全員で学校の運営を考える機会があると、共通理解のもとで、業務を考えたことがあります。(青森市)
- ・ 学級担任の時、学級の生徒のトラブルについて、複数人が関係したときに主任や副担で手分けして事情聴取や家庭連絡をしていただいたことがある。最後は学級担任から連絡しなければ、という気持ちもあったが、(部活動等ではなんらかのつながりがある)副担から連絡していただき、精神的にとっても負担が減った。(五所川原市)
- ・ 生徒会誌の他校への配布をやめた。生徒会誌に関しては、個人情報保護の観点からも、他の学校も配布をやめるべきでは？と思う。また、運営要覧も各校への配布はいらないと思う。(弘前市)
- ・ 全校生徒がスクールバスでの登校をしているが、生徒の登校時間を勤務時間開始後(午前8時5分頃に学校到着)に変更した。(外ヶ浜町)
- ・ 学年の進むべき方向が一緒であることが大切だと思う。また、教員間でも誰かが出した意見を否定せず、一緒に考えて行く姿勢が大事だと思う。横の連携。教職員間の連携が取れて一枚岩であれば、どんな困難にも向かっていけると思う。(青森市)
- ・ 校内研の指導案配布を廃止。(弘前市)
- ・ お手紙、おたより、提出物が紙ベースなので、三者面談の希望調査はQRコードを使っても回答ができるようにした。集計の手間が全然違う。(中泊町)
- ・ ホワイトボードミーティング(空き時間に30分程度で、支援が必要な生徒の今後について意見を出し合い、方針を決める)。(弘前市)

6 業務改善について、今まで取り組んでみて、効果があったと感じる取組

(3)高等学校

- ・各分掌で重複している業務は積極的にECRSの視点で提案をする。(出欠の把握をかつて3か所あったものを一つにした)(遅刻カードを廃止した)など。「なぜ」「どうして」を常に考え、意義を感じる人がいないのであれば廃止する。
- ・仕事を抱えている人には、まずはやらなければいけないことを紙に書いて整理させ、分配できる業務は引き受ける。自分自身も仕事を書き出して優先順位をつけて机の上に置いておく。他の人も見えるところに置いておくことが重要。周りの人から何をしているか分かるようにしておく。「仕事の見える化」、遅くまでいることを美化しない。ねぎらいはするが、本来はよくないことという風潮を作ること。
- ・生徒・教職員ともに完全退校時間を遵守させることがひとつ効果的だと感じた。
- ・前任校では教務が日々の連絡をGoogleで発信しているため、改めて学年の連絡を別紙で作るのをやめた。全体の朝会は週2回だが、学年の打合せは毎朝副担任も含めて行っているため、全体とは別に学年の動きについてはそこで確認をとった。
- ・模擬試験監督において卒業生を活用することにより、土日に働く教員の人数や時間を軽減できる。
- ・校則等ルールを見直すことで生徒指導に関する教職員の負担感軽減になったと感じている。
- ・自分の業務予定と報告を毎日自分にメールして記録し、自分が何の業務にどれだけ時間を使っているのかを見える化した。その結果、ある業務は毎日ではなく週2回にするなど見直しして、できるだけ定時(は無理なので定時にできるだけ近く)帰るように工夫した。
- ・研究紀要作成の廃止等
- ・ICT関連のマニュアル化。時間も手間もかかるが、管理者用、ユーザ用の操作マニュアルを自校で作成している。何度も同じ説明をする手間が減り、ある程度使える人が増えてくれれば、管理者に問い合わせなくても解決できる環境になる。
- ・複数のHRをまとめて、模試を大部屋で実施。
- ・行事後あまり時間を置かず振り返りを行い、次年度への改善策とする。

6 業務改善について、今まで取り組んでみて、効果があったと感じる取組

(3)高等学校

- ・英語検定の三級の開催をやめた。
- ・放課後の講習は今年度から2コマから1コマに減った。
- ・分掌内での業務の見える化(ホワイトボードに各自の進捗状況等を記入)。
- ・教材や備品の定位置管理を徹底することで、急な欠勤時でも授業準備がスムーズに進み、物を探す無駄な時間を減らせている。
- ・夏期講習、冬期講習の朝SHRの廃止。
- ・生徒の残る時間を決め、それ以外は鍵をかける。生徒は放課後がずっとあると思っている。
- ・教頭先生の働きかけにより、職員間で情報共有できるポータルサイトができた(Googleサイト使用)。これにより、毎日の打合せが週2回に減り、情報共有しやすくなった。
- ・校内研修で業務改善に向けたワークショップを開催→その意見を踏まえて、校内でプロジェクトチームを結成→チーム内で改善策を話し合い、提案・実行に移す校内体制を構築した。
- ・年次・分掌間のコミュニケーションが密にとられていると業務がはかどっていた。
- ・現任校では、お互いが年休や病休、看護休暇などを取得しやすいように管理職が配慮してくださっている。個々の業務に繁忙期があり大変な時期もあるが、メリハリを持って勤務できることでモチベーションも違ってくると思います。
- ・ざっくばらんに感じていることを話す機会を設定していただいたこと。
- ・ほとんど無意味になっている届や書類の廃止を提案した。一部見直された。

(4)特別支援学校

- ・ 学部主任と話して、今年は大幅に年間指導計画の書類を簡素化した。これはよかった。
- ・ 教科の指導内容を教科担当で毎年見直して、各学年の指導内容が明確な学校があった。担当者が生徒に合わせて、新たな題材を取り入れたり削除したりして指導していくゆとりもあり、とても指導しやすかった。
- ・ 特スポが始まったことから、運動会を廃止した。
- ・ 職員全員を対象に、働き方のより具体的な捉え方について理解を図る機会があったこと。
- ・ 紙で配布していた配布物をアプリ「まなびポケット」で配布するようにしたこと。
- ・ ICTの活用。情報機器の操作に慣れる。
- ・ Googleフォームを利用し、「児童生徒の欠席」と「職員の年休申請」と「給食の有無」をまとめて管理できるようにした。
- ・ まだ取り組み始めだが、同窓会の案内をメールにした。手紙、はがきを刷って郵送もなかなかの手間。その上届いてないと言われることもあるが確認できない。メールなら履歴も残るし、再送信も容易。上手くいけば良いと思う。
- ・ 復命書の所感をなくす。
- ・ PTAの行事に関する計画案を委員会で検討したり意見を聞いたりしてみたところ、案外いろいろな意見や情報を得ることができて、負担感が軽減された。
- ・ 外部講師によるワークショップは効果的だと思う。先生方一人一人が、学校を変えることに主体的に関わるきっかけとなったと感じた。
- ・ 午後1時下校が、毎週水曜日にあり、時休が取りやすい。
- ・ 内容によって、簡易起案となるものを増やした。

設問表

(1)小学校・中学校

学校における働き方改革に関する教職員アンケート(小学校用)

- ・ このアンケートは、学校における働き方改革に係る取組の参考とするため実施するものです。
- ・ 質問は全部で8問、所要時間は5分程度です。
- ・ アンケート結果は所管の教育委員会へ情報提供させていただきますが、個人が特定されることはありません。
- ・ 目的以外には一切使用しませんので、率直なご意見をお聞かせください。

* 必須の質問です

問1 あなたの所属校の校種を教えてください。*

小学校以外の所属の方は、該当する校種のフォームから回答をお願いします。

 小学校（または、義務教育学校前期課程）

問2 所属校の設置者を教えてください。*

問3 あなたの職名を教えてください。*

教育職員を選択した方は問4へ、事務職員等を選択した方は問7に移動します。

教育職員にお伺いします。

問4 あなたの担当業務を教えてください。

(1)校務分掌等（複数選択可）*

「主任等」とは、教務主任、学年主任、保健主事、生徒指導主任・主事、進路指導主事、研修主任、教科主任などをいいます。

- 1: 学級担任
- 2: 主任等
- 3: 上記以外

(2)部活動・委員会活動（複数回答可）*

- 1: 運動部顧問
- 2: 文化部顧問
- 3: 委員会
- 4: 上記以外

※中学校の設問表は、「小学校」を「中学校」に、「小学校（または、義務教育学校前期課程）」を「中学校（または、義務教育後期課程）」に置き換えて実施。

(1)小学校・中学校

教育職員にお伺いします。

問5 「働きがい」に関する質問です。

現在、子どもと向き合うための時間が十分に確保できていると感じますか。*

「子どもと向き合うための時間」とは、児童生徒への直接の指導のみならず、授業準備や進路指導など、子どもとの教育活動のために充てられている時間、とします。

- 1: 確保できている
- 2: やや確保できている
- 3: あまり確保できていない
- 4: 確保できていない

教育職員にお伺いします。

問6 「働きやすさ」に関する質問です。

(1)負担感や多忙感を解消してほしいと思う業務を選択してください。(最大5つ)*

- 1: 授業
- 2: 免許外の授業
- 3: 学習会など、授業以外の学習指導
- 4: 授業準備

- 5: 採点・学習評価・成績処理
- 6: 学級・学年経営
- 7: 登下校指導
- 8: 生徒指導（問題行動・補導案件への対応を含む）
- 9: 児童生徒の休み時間における対応
- 10: 清掃指導・校内清掃
- 11: 部活動等に係る指導・引率
- 12: 給食指導
- 13: 学校行事
- 14: 進路指導
- 15: 支援が必要な児童生徒への対応
- 16: 教職員間の調整・対応
- 17: 分掌業務
- 18: 会計業務
- 19: 調査への回答・報告書等の書類作成
- 20: ICT環境の整備・活用
- 21: 学校広報（HPやSNSの運用等）
- 22: 校内巡視・宿日直・開錠施錠
- 23: 時間外の電話対応（朝の欠席連絡等を含む）
- 24: 保護者対応
- 25: 地域との協働（地域ボランティアとの連絡調整、地域行事等）
- 26: 行政機関への対応（学校訪問、各種事業、連絡調整等）
- 27: 会議・打合せ（校内外問わず）

(1)小学校・中学校

- 28: 研修（校内外問わず）
- 29: PTAの事務局業務・大会等の運営
- 30: 教育研究会の事務局業務・大会等の運営
- 31: 中体連・中文連の事務局業務・大会等の運営
- 32: 29～31以外の回体に関する業務
- その他: _____

(2) (1)で選択した業務について、負担感や多忙感を解消してほしい内容を具体的に教えてください。(任意回答)

回答を入力

すべての職員にお伺いします。

問7 「働きやすさ」に関する質問です。

(1)働くに当たって、勤務時間を意識していますか。*

- 1: 意識している
- 2: やや意識している
- 3: あまり意識していない
- 4: 意識していない

(2)働きやすい学校づくりに向けて、会議や打合せの時間に、日々の業務に関する気付きや改善策等について、職員間で気軽に話し合ったり、アイデアを出し合うことができていると感じますか。

「気付き」には、校内の書類管理や職員室の環境改善等の事務的なものから、授業や学校行事などの教育活動に至るまで、日々の業務で職員個人が感じる様々な事柄が含まれます。

- 1: できている
- 2: ややできている
- 3: あまりできていない
- 4: できていない

すべての職員にお伺いします。

問8 学校における働き方改革に関する事例・ご意見

(1)業務改善について、今まで、所属校やご自身で取り組んでみて、効果があったと感じる取組（他校にすすめたい取組など）があれば、記載してください。(任意回答)

回答を入力

(2)学校における働き方改革に関するご意見やアイデアがあれば、記載してください。(任意回答)

回答を入力

(2)高等学校・特別支援学校

学校における働き方改革に関する教職員アンケート(高等学校用)

- ・このアンケートは、学校における働き方改革に係る取組の参考とするため実施するものです。
- ・質問は全部で7問、所要時間は5分程度です。
- ・目的以外には一切使用しませんので、率直なご意見をお聞かせください。

* 必須の質問です

問1 あなたの所属校の校種を教えてください。*

高等学校以外の所属の方は、該当する校種のフォームから回答をお願いします。

 高等学校

問2 あなたの職名を教えてください。*

教育職員を選択した方は問3へ、事務職員等を選択した方は問6に移動します。

選択

教育職員にお伺いします。

問3 あなたの担当業務を教えてください。

(1)校務分掌等（複数選択可）*

「主任等」とは、教務主任、学年主任、学科（部）主任、保健主事、生徒指導主任・主事、進路指導主事、研修主任、渉外主任、図書主任、農場長などをいいます。

- 1: HR担任
- 2: 主任等
- 3: 上記以外

(2)部活動・委員会活動（複数回答可）*

- 1: 運動部顧問
- 2: 文化部顧問
- 3: 委員会
- 4: 上記以外

※特別支援学校の設問表は、「高等学校」を「特別支援学校」に置き換えて実施。

(2)高等学校・特別支援学校

教育職員にお伺いします。

問4 「働きがい」に関する質問です。

現在、こどもと向き合うための時間が十分に確保できていると感じますか。*

「こどもと向き合うための時間」とは、児童生徒への直接の指導のみならず、授業準備や進路指導など、こどもとの教育活動のために充てられている時間、とします。

- 1: 確保できている
- 2: やや確保できている
- 3: あまり確保できていない
- 4: 確保できていない

教育職員にお伺いします。

問5 「働きやすさ」に関する質問です。

(1) 負担感や多忙感を解消してほしいと思う業務を選択してください。（最大5つ）

- 1: 授業
- 2: 免許外の授業
- 3: 講習など、授業以外の学習指導
- 4: 授業準備

- 5: 採点・学習評価・成績処理
- 6: 模試・検定試験の運営・監督
- 7: 学級・学科（部）・学年経営
- 8: 登下校指導
- 9: 生徒指導（問題行動・補導案件への対応を含む）
- 10: 児童生徒の休み時間における対応
- 11: 清掃指導・校内清掃
- 12: 部活動に係る指導・引率
- 13: 給食指導
- 14: 学校行事
- 15: 進路指導
- 16: 支援が必要な児童生徒への対応
- 17: 教職員間の調整・対応
- 18: 分掌業務
- 19: 会計業務
- 20: 調査への回答・報告書等の書類作成
- 21: ICT環境の整備・活用
- 22: 学校広報（HPやSNSの運用等）
- 23: 校内巡視・舎監業務・開錠施錠
- 24: 入学選抜業務
- 25: 時間外の電話対応（朝の欠席連絡等を含む）
- 26: 保護者対応
- 27: 地域との協働（評議員・外部コーチ等との連絡調整、地域行事等）

(2)高等学校・特別支援学校

- 28：外部機関との連携（大学、民間企業）
- 29：行政機関への対応（学校訪問、各種事業、連絡調整等）
- 30：会議・打合せ（校内外問わず）
- 31：研修（校内外問わず）
- 32：PTAの事務局業務・大会等の運営
- 33：教育研究会の事務局業務・大会等の運営
- 34：高体連・高文連の事務局業務・大会等の運営
- 35：特スポ・技能検定の事務局業務・大会等の運営
- 36：32～35以外の団体に関する業務
- その他： _____

(2) (1)で選択した業務について、負担感や多忙感を解消してほしい内容を具体的に教えてください。（任意回答）

回答を入力

すべての職員にお伺いします。

問6 「働きやすさ」に関する質問です。

(1)働くに当たって、勤務時間を意識していますか。*

- 1：意識している
- 2：やや意識している
- 3：あまり意識していない
- 4：意識していない

(2)働きやすい学校づくりに向けて、会議や打合せの時間に、日々の業務に関する気付きや改善策等について、職員間で**気軽に**話し合ったり、アイデアを出し合うことができていると感じますか。*

「気付き」には、校内の書類管理や職員室の環境改善等の事務的なものから、授業や学校行事などの教育活動に至るまで、日々の業務で職員個人が感じる様々な事柄が含まれます。

- 1：できている
- 2：ややできている
- 3：あまりできていない
- 4：できていない

(2)高等学校・特別支援学校

すべての職員にお伺いします。

問7 働き方改革に関する事例・ご意見

(1)業務改善について、今まで、所属校やご自身で取り組んでみて、効果があったと感じる取組（他校におすすめしたい取組など）があれば、記載してください。（任意回答）

回答を入力

(2)学校における働き方改革に関するご意見やアイデアがあれば、記載してください。（任意回答）

回答を入力